

第三次愛知県教育振興基本計画（仮称）検討会議第1回専門部会及び計画骨子（案）について

- 第1回検討会議（5月29日）における議論を踏まえ、以下の3つの専門部会を設置し、めざす「あいちの人間像」や、計画に盛り込むべき事項について協議を行った。第1回検討会議及び各専門部会における委員の発言要旨については、次頁以降にとりまとめた。
- 第1回検討会議及び各専門部会における委員の発言を踏まえ、資料1のとおり、基本計画の骨子（案）を事務局で作成した。骨子（案）については、8月24日の第2回総合教育会議で協議が行われ、基本計画の「基本理念」、めざす「あいちの人間像」、「基本的な取組の方向」の部分を、教育に関する「大綱」として位置づけることと、9月9日の第2回検討会議において、骨子（案）について協議を行うことについて合意が図られた。

	開催日	協議事項	構成員 (◎は部会長)	出席者
第一部会 基礎・基本を忠実に	7月7日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めざす「あいちの人間像」について</li> <li>・縦軸（就学前、初等教育、中等教育、高等教育）の連携について</li> <li>・その他計画に盛り込むべき事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎中野副座長（愛知淑徳大学教授）</li> <li>齋藤委員（愛知県私立幼稚園連盟副会長）</li> <li>加藤委員（愛知県小中校長会会長）</li> <li>小川委員（愛知県公立高等学校長会会長）</li> </ul>	中野副座長 齋藤委員 加藤委員 （小川委員には、7月30日に個別ヒアリングを実施）
第二部会 時代の要請を受けた教育の展開	7月9日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育について</li> <li>・世界に羽ばたく人材の育成について</li> <li>・その他計画に盛り込むべき事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎白井委員（愛知教育大学理事）</li> <li>清水委員（愛知県経営者協会会長）</li> <li>犬塚委員（NPOキャリアデザインフォーラム代表理事）</li> <li>石田委員（愛知県私学協会会長）</li> </ul>	白井委員 山本衛氏（清水委員代理） 犬塚委員 石田委員
第三部会 教育活動を支える基盤	7月10日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員への支援について（資質向上・多忙化解消に向けた取組）</li> <li>・多様な児童生徒及び保護者に対する支援について（外国人・貧困家庭など）</li> <li>・その他計画に盛り込むべき事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎柴田委員（名古屋大学教授）</li> <li>土井委員（NPO多文化共生リソースセンター東海代表理事）</li> <li>鈴木委員（愛知県特別支援学校長会会長）</li> <li>加藤委員（愛知県都市教育長協議会会長）</li> </ul>	柴田委員 土井委員 加藤委員 （鈴木委員には、8月6日に個別ヒアリングを実施）

## 第1回検討会議・第1回部会の委員発言要旨

### 第1回検討会議 (H27. 5. 29)

#### <情報モラル>

- ・ 情報化の進展に伴うリスクについて学ぶ機会が必要。

#### <主権者教育>

- ・ 主権者教育は、高校では避けて通れない課題である。

#### <幼児教育>

- ・ 保護者の教育、支援も必要。

#### <学び>

- ・ アクティブ・ラーニングは、豊かな学びの重要な柱。そのために、教員研修が必須。

#### <グローバル>

- ・ 英語だけでなく、愛知県の実状に応じた言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国語等）について支援が必要。
- ・ 海外から来た子ども、国際結婚の日本国籍の子ども、グローバル企業の帰国子女等、みんなあいちの理念に沿って育てていきたい。
- ・ 教師のグローバル化も必要。
- ・ 底上げの教育だけでなく、引き上げの教育、トップクラスを育てる教育も必要。

#### <キャリア教育>

- ・ 失敗しない人よりも、チャレンジして失敗から学ぶ人が欲しい。
- ・ 「あいち」とは何か。アイデンティティを明らかにすることが重要。
- ・ あいちの超「ものづくり」。アイデア、システム、ソフト、仕組みという特徴もある。
- ・ 産業教育と学校教育とをつなぐことが必要。
- ・ 社会の産業構造の変容を踏まえた将来への目標づくりをしてほしい。

#### <教員への支援>

- ・ 子どもと向き合う環境づくり、ゆとりある環境のバックアップ、実効性のある多忙化解消策が必要。
- ・ 教員を育てる環境、時代に合った教員研修、生涯にわたって学び続ける教員の養成、教師の実践力を育てること、研究にリーダーシップがとれる教員の力量が必要。
- ・ 教員養成は私学も入れて行ってほしい。

#### <学校づくり>

- ・ 市町の財政力に応じた幼児教育の教育力向上の手立てが必要。
- ・ 障害のある方々との共生、インクルーシブ教育システムの構築が必要。
- ・ 校種を超えた子どもたちの育ち、学びの縦のつながりと、小学校を核とした地域あげての教育システムづくりが必要。
- ・ 体験量の格差を埋めていく仕掛けが必要。
- ・ ダイナミックな教育内容を進めるための条件整備が必要。
- ・ 市町村との連携強化、教育予算の確保が必要。
- ・ 少子高齢化、人口の都市集中、地域再生をにらんだ人材育成の視点が必要。

#### <私立学校の振興>

- ・ 幼稚園教諭の待遇改善を図る必要がある。
- ・ 公立・私立を分け隔てしない施策、私立独自の特色ある教育を取り入れる施策を考えてほしい。

### 第1回第1部会 (H27. 7. 7)

#### <めざす「あいちの人間像」>

- ・ 0～2歳時における保護者との関係を濃密にすることで、人に対する信頼感が培われる。そのことで自分の存在を大切にできる子どもが育つ。
- ・ 自分の命を大切に他者の命を大切に思い、思いやりの気持ちが芽生えていく。道徳性の芽生えである。共感する力と言ってもよいかもしれない。
- ・ 自分の考えを他者のものと照らし合わせて、よりよい考えにしていくというように、自分と他者をあわせた表現にできないか。
- ・ 愛知らしさというと、「ものづくり」となってしまうが、ほかにはどうか。どうしても製造業というイメージになる。

#### <縦軸の連携>

- ・ 市町ごとに意識して、ある程度はやっている。県レベルで一斉にというのは難しい。
- ・ 高校のないところも、ないなりに連携を考えて、それを県がサポートする形になるのか。
- ・ 幼小保の連携をずっとやっている所もある。どのように連携するかは、地域によって違う。
- ・ 連携には、地域づくりの視点、グローバル化の視点、キャリア教育の視点、高校選択の視点などがある。何を指すための方法かをはっきりさせることが必要。
- ・ 連携において、県が担う役割は何か。市町村立の学校、私立幼稚園、という中でどうするか。
- ・ 私立幼稚園は、建学の精神の違いを理由に、本来の幼児教育の目標からずれてしまう。県から幼児教育のあるべき姿について浸透させてほしい。
- ・ 親子のみの生活では社会性が育たない。就学前に家庭と地域とをどう関わらせるかがポイント。
- ・ 最近の親は、子どもに関わり過ぎており、子育てが優しすぎる。叱るときはきちんと叱ることが必要。
- ・ 半田市の例は、キャリア教育を縦軸にしているが、串刺しにして市で取り組んでいくという捉えは分かりやすく、市町村でやりやすい。こういうところに県の支援を入れていけるとよい。
- ・ 幼稚園教諭も、資質と専門性を高めていくことが必要。
- ・ 幼児教育では、外で遊ばせる経験をさせることが必要。
- ・ 愛知県は健康年齢が高い。体を動かす経験、活動できる場づくりが必要。
- ・ 幼稚園での英語教育は、外国語を話す人と接点を持ち、身振り・手振りで自分の思いが伝わる経験をさせることが大切。
- ・ 小学校では、英語の教科化が課題。教員に必要感をどのようにもってもらうか。
- ・ 学校は、教員以外でやれることをアウトソーシングするよう大胆に発想を切り替え、行政がそれを支援することが必要だ。
- ・ 地域の学校支援に関しては、形の違いはあるにせよ、どこの地域でもやっているのではないかと。
- ・ 卒園児が多く的小学区に分かれる幼稚園は、地域連携が難しい。小学校との連携も難しい。
- ・ 新しく何かを起こすようなエネルギーを使うときには、マンパワーが欲しい。

## 第1回第2部会 (H27.7.9)

### <キャリア教育>

- ・ 職場体験の体験先については、企業や商工会等とのコラボレーションやインターネットの活用、キャリア教育コーディネーターの配置、シニア世代やコミュニティスクールの活用を検討すべき。
- ・ キャリア教育の目的を明確にする必要がある。
- ・ 教員養成の段階で、異業種体験等、様々な体験をさせたい。
- ・ どんな仕事にも意義があり、価値を見いだして働き続けられる能力を身に付けさせることが必要。
- ・ 学校が行う、親が行う、地域社会が行うそれぞれのキャリア教育を、有機的に行っていくことが必要。
- ・ 親や社会に啓発を行っていくことが必要。

### <世界に羽ばたく人材の育成>

- ・ 価値観や生活様式の違いを乗り越えながら、一緒に働ける人をつくる。多様性を尊重できる子どもを育てることが大切。外国籍の子どもが多いという本県の特徴を前向きに捉えたい。
- ・ 海外の情報をダイレクトに知るために、また、日本の情報を正しく外国語で伝えるために語学力は必要。ダイバーシティの考え方も大切。
- ・ 海外を視野に入れて、地域で貢献する「グローバル」という視点があってもよい。国際的な視点をもって、地域でどのように生きるか。
- ・ 外国人への対応と特別支援は学校も大変である。財政力のない市町村は独自の対応ができないため、県が基盤整備をするべき。

## 第1回第3部会 (H27.7.10)

### <教員の資質向上>

- ・ スキルの研修だけでなく、教育者としての「教育観」や「情熱」といった根幹をどう育てていくかという視点も重要。
- ・ 研修の成果を他の教員が共有する仕組みを検討する必要がある。
- ・ アクティブ・ラーニングについて、小中学校では授業研究の中で成果を上げているところもあるので、それを高校、大学でも引き上げていくことが必要。
- ・ 若い教員が教員のキャリア全体を見据えながら、やりがいを確認できるような職場にしていくことが、教員の資質を向上させていく基礎である。
- ・ 小・中・高・特支などの学校種、県・市・私立などの設置者の壁を越えた連携が、県としてできるのではないかな。
- ・ どの教員にも必要な資質の育成と、特化した専門性の育成の両方が必要であるが、後者については、総合教育センターや市町村教委の役割が重要である。
- ・ 小中の特別支援学級担当教員の資質を向上させたい。養成段階から特別支援教育について学ばせ、将来への処遇面も含めて計画的に資質を向上させる必要がある。
- ・ 盲・聾も含め、人的配置によってインクルーシブ教育へ進めていきたい。

(右に続く➡)

## 第1回第3部会 (H27.7.10)

### <教員の多忙化>

- ・ 部活を担当すると家庭のことができないという状況に対しては、具体的な改善策を講じる必要がある。
- ・ 部活の教育的意義、価値を認識した上で、活動時間が少なくても工夫して成果を出すという努力も必要。
- ・ 一人一人の業務時間を減らすことは重要だが、それによって同僚のカバーができなくなると学校はうまくいかなくなる。
- ・ 物理的な多忙とは別に、多忙感がある。自分たちの教育活動には価値があり、素晴らしいという評価ができるような職場風土を、管理職はつくっていききたい。
- ・ これからの校長は、教員としてだけでなく、経営者としての資質も持ち合わせる必要がある。地域の学校としての経営ビジョン、グランドデザインを描ける校長である。
- ・ 校長には、学校に入ってくる多くの人材をマネジメントできる能力が、これまで以上に必要。

### <外国人児童生徒への対応>

- ・ 外国人の子どもへの教育についての専門的・体系的な教育が行われておらず、知識をもった教員が少ないのが問題である。教員養成課程の専攻科目として必修化・制度化をしていく必要があるのではないかな。
- ・ 外国人の子どもへの教育を支援している人材を、学校単位で探すのは難しい。その情報をバックアップできるとよい。
- ・ 外国人教育に関する管理職研修を充実していく必要がある。
- ・ 支援を必要とする子どもは、国籍だけではつかめない。帰国子女なども含め、「外国につながる」「外国にルーツをもつ」という認識を共有する必要がある。
- ・ 外国人生徒の受入先として、昼間定時制の高校を増やすことを検討してほしい。
- ・ ネパール語、ベトナム語などを母語とする子どもに対しても、日本語教師を活用することで学力を向上させている事例もある。
- ・ 保育園や幼稚園から小学校に対して情報の引き継ぎが十分にできていない、という話も聞く。日本語能力に関するカルテを幼稚園や保育園で作成し、小学校に渡すという取組を進めていけないかな。
- ・ 教員加配の上限を撤廃してもらったことはありがたいが、その代わりに加配の下限が引き上げられると困るところが出てくるかもしれないので、配慮が必要である。
- ・ レベルの高い外国人生徒のニーズに合うよう、高校への就学の道をつくっていききたい。

### <子どもの貧困>

- ・ 貧困は子どもの体験量の格差として現れている。この格差を埋めるため、横のつながり、地域とのつながりを計画の軸として位置付けたい。
- ・ 地域の有能な人材を、子どもたちの体験に生かす仕掛けをつくる必要がある。
- ・ 学び直しの視点をどのように位置付けるかな。

### <その他>

- ・ 設置者の壁を乗り越えて、資質・能力を育てていくシステムづくりを愛知の特徴として出してほしい。